

北区日中会報

初 行 日
令和3年1月1日
第51号

編集 北区日中友好協会広報
発行 北区日中友好協会
東京都北区王子2-14-17
丸山事務所内 Tel03-3911-2381

令和 3年
新年を迎えて



花川與惣太会長

会員の皆様には、健やかに新年をお迎えになったこととお喜び申し上げます。

昨年は新型コロナウイルスの世界的な感染拡大により、各国との交流が大きく制限され、日中間の往来も一部を除いて制約されております。国内においても、あらゆる活動が自粛を余儀なくされました。本会においても、ウイルスの感染が心配されはじめた2月に開催された春節餃子パーティーが昨年唯一のイベントとなりました。会場をお借りした王子小学校の校長先生をはじめとする先生方のご理解とご協力もあり、100名を超える日中の方が参加され、春節を祝いました。その折りに中国へ贈るマスクを参加者に提供していただき、約1000枚のマスクを北区の友好交流都市である北京市西城区にお贈りしました。その後、ウイルス感染拡大を心配して社会が萎縮する中、私達に明るい希望の光として中国系企業の経営者と西城区からも北区日中宛てにマスクが届き、両区の絆が更に深まりました。

さて、本年も新型コロナウイルスの感染が収束に向かうまでは、恒例の行事を従来通りに行なうことは困難ではありますが、細心の注意と工夫を凝らして開催できるものは、検討していきたいと存じます。そこで、先ず、恒例の春節餃子パーティーは形を変え、「春節を祝う 変面・雑伎ショー」として本会報最終ページの通り、開催することを企画いたしました。新型コロナウイルスによる災いを演目のはじめに登場する日中獅子舞の共演で打ち払い、福を呼び込み、他の演目で参加頂く皆様に元気をお届けしたいと思います。会場入口での検温、手指消毒のお願い等、万全の準備で皆様をお迎えしたいと思いますので、ご参加頂ければ幸いに存じます。総会を含むその他の行事につきましては新型コロナウイルスの感染状況を踏まえ検討していく所存です。

新型コロナウイルスの感染拡大は続いておりますが、一方ではワクチンの開発も進んでおり、英国、米国では接種が始まり、本年上半期には日本に対して供給されるとの報道もあります。とはいっても、会員各位におかれましては、三密を避け、会食事には感染防止「5つの小」などの対策をこころがけ、油断せずに過ごしたいだけだと思います。

結びに新年が皆様にとって幸多き年であることをお祈り申し上げます。

相田みつをの知られざる中国への想い

事務局長 丸山隆司

4年ほど前、後楽寮（中国国費留学生会館）の国慶節祝賀会にお招きを受けた際、ホールで留学生達が歌や踊りを披露した後に夏瑛事業部長が書道のパフォーマンスを行いました。その揮毫された文字は「逢」でしたが、見覚えのある相田みつを先生の書にそっくりでした。夏部長に尋ねてみると、相田先生の大ファンとのこと。

夏部長は、その立場上、留学生から学校でのことや慣れない日本での生活など、様々な相談に親身になって対応していましたが、いつしか自分自身が憂いを抱えるようになり、心配した日本の友人から相田先生の作品集を紹介され、以来、その書に癒やされ、心の安定を取り戻したことでした。

書家・詩人として「にんげんだもの」等の作品で知られる相田みつを先生は私の父（元北区日中副会長）と同じ郷里の栃木県足利市の出身です。今から40年ほど前、丸山家菩提寺のご住職のご紹介で初めて



左端が夏瑛部長

相田先生にお目にかかる機会を得ましたが、父とは誕生日が1年と1日違いの同年代ということもあります。二人は意気投合し、その場で「うばい合えば足らぬ 分け合えばあまる」の書をお譲り頂き、今では丸山家の家宝となっています。その後、相田先生からご自宅にお招きを頂いたり、私が関係するボランティア団体の講演会の講師として二度も上京して頂きました。私は、そうした中で多くの薰陶を受けましたが、その中で、相田先生から中国への想いを直接聞かせて頂いたことがあります。皆さんにも是非、

その想いを知って頂きたく、この紙面をお借りしたいと思います。

相田先生には「あんちゃん」と呼ぶ二人の兄がおり、お二人とも先の戦争で戦死されています。相田先生はこの二人のあんちゃんの働きで旧制中学に進学することができました。そのうちの一人のあんちゃんは、日中戦争の頃、成績優秀で憲兵に抜擢され、北京に派遣されてからは中国語をマスターし、排日運動の疑いで検挙された北京大生などの若者の取り調べをする立場にいました。ある時、あんちゃんから手紙が届きましたが、

その中身は、「取り調べる学生達はいずれも頭脳明晰で愛国の心強く、もし、彼らを処刑するようなことになれば、将来、日本と中国が眞の友好国になったとき、禍根を残すことになり、また、自分の弟のような若者を死刑にするのは忍びず、全て無罪放免の調書を書いている。このことが上司に知られれば、自分は反逆罪、郷里の家族にも類が及ぶからこの手紙

は読んだらすぐに焼却すべし」というものだったそうです。あんちゃんのそうした心優しさを証明するかのように戦死後、足利のご実家には多くの無名の中国人からも供花が届けられたそうです。相田先生は、もしその手紙が焼却せ



相田みつを先生（左端）とともに（昭和55年）

ずに残っていたのなら、どんなにか中国人の人たちに喜んでもらえただろうと、残念がっておりました。私は、これまで親しい中国の友人にはこの話をご紹介してきましたが、夏部長はその後、相田みつを美術館にも足を運んでください

ました。日中友好協会は過去の戦争の反省に立って設立されましたが、戦争当時も相田先生のあんちゃんのような日本人もいたことを知って頂ければ嬉しく思います。

※ 相田みつを美術館は有楽町駅国際フォーラム口徒歩3分 東京国際フォーラム地下1階 月曜休館

北区と北京市西城区との間でオンライン交流

新型コロナウィルス感染により日中双方の交流が大幅に制限されている現在ですが、12月11日、北区と北京市西城区との間でオンラインによる交流が実施されました。北区の会場は北とぴあのスカイホール。出席者は北区役所のほか、区民交流団に参加された方々で、北区日中友好協会からも参加させていただきました。双方の出席者紹介の後、両区より挨拶がかわされ、北区日中からも皆川誠一副会長から挨拶をさせていただきました。その後、茶席の絵付けの体験となり、西城区の講師の方よりオンラインで指導いただきました。これは麻の生地に色付けをする体験で、かなりの集中力が必要でした。つづいて北区よりは折り紙を西城区の区民の方々に体験いただき、コップと兜に挑戦してもらいました。時間の制約もあり、北区、西城区双方の結びの言葉ののち、午後5時半過ぎにお開きとなりました。今回は個々の交流とまではいきませんでしたが、双方の顔を見ながら交流ができたのは、とても意義深いものがありました。新型コロナウィルスが収束し、相互の訪問がはやく実現するよう、祈らずにはいられない交流でした。

コロナ禍の中、皆さんに元気をお届けします！

春節を祝う 変面・雜伎ショー

～二胡の演奏、日中獅子舞の共演もお楽しみ下さい～

主催 北区日中友好協会

昨年は、新型コロナウイルスの影響で、あらゆる活動が自粛を余儀なくされました。新春を迎える北区日中ではウイルスに負けないよう皆様にエールを送ります。例年の春節餃子パーティーに代わり、中国伝統の素晴らしいパフォーマンスをご用意しました。

2月12日の春節を前に明るい笑顔の花を咲かせたく、皆様のご来場を心よりお待ち申し上げます。（入場は600人定員のところ、密を避けて先着180名様となりますので、予めご了承下さい。参加ご希望の方はQRコードまたは下記の携帯番号からお申し込み下さい。）

記

日 時 令和3年2月7日（日）
開演 午前11時（開場 午前10時半）

会 場 王子小学校体育館（北区王子2-7-1） 入場無料

演 目 獅子舞（福を呼び災いを祓う縁起の良い舞）
二 胡（哀愁を帯びた美しい音色の弦楽器）
雜 伎（中国伝統の芸術的曲芸）
変 面（瞬時に仮面を替える国家機密の妙技）



※ 入場に際しては、マスクの着用、入口での検温、手指消毒にご協力下さい。

※ 新型コロナウイルス感染の推移によっては開催を中止する場合があります。

※ 体調不良、発熱等の症状のある方は入場をお断りします。

お問い合わせは丸山まで
090-4376-4760